

パターンの意味を保つ同値変換

5P-10

鈴木 昇

(文教大学湘南キャンパス情報学部)

1. まえがき
以前パターン認識プログラム FERT を提案し⁽¹⁾、そのシミュレーション結果も報告している。⁽²⁾ 本小文では、この FERT の働きに留意し、パターンの意味(パターンの帰属するカテゴリ)が保たれる変換について目的表示をし、その変換構造を明らかにする。(本小文では、文献(1)における構造化写像を一般化して、収縮写像 \mathcal{T} としている。詳細は文献(3)を見よ。)

2. 認識プログラム FERT
お $j \in J$ 番目のカテゴリ C_j の代表パターンを $w_j \in \mathcal{W}$ とする。カテゴリ集合 $\mathcal{C} = \{C_j | j \in J\}$ 内のいずれか一つのカテゴリに帰属するかを決定したい処理対象入カパターンを $\varphi \in \mathcal{W}$ とする。

$\psi^0 \equiv \text{cons}(\varphi^0, \text{空リスト}), \text{ここに}, \varphi^0 \equiv \mathcal{T}\varphi$
 $\Gamma^0 \equiv \text{cons}(\gamma^0, \text{空リスト}), \text{ここに},$
 $\gamma^0 \equiv \text{SORT}([1, 2, \dots, \text{最大カテゴリ番号}], \varphi^0)$
として、認識プログラム FERT に二つのリスト ψ^0, Γ^0 の対リスト $[\psi^0, \Gamma^0]$ を入力して得られる対リストの系列を
 $[\psi^0, \Gamma^0], [\psi^1, \Gamma^1], \dots, [\psi^t, \Gamma^t], \dots$
とする。ここで、

$\psi^t \equiv \mathcal{T}A(\gamma^{t-1})\mathcal{T}\psi^{t-1} \dots$ おお認識段階で構造受精されたパターン
 $\gamma^t \equiv \text{tail1}(\text{SORT}(\gamma^{t-1}, \psi^t)) \dots$ ψ^t が帰属する候補カテゴリの番号のリスト
とおけば、 ψ^t, Γ^t は
 $\psi^t = \text{cons}(\psi^t, \psi^{t-1})$
 $\Gamma^t = \text{cons}(\gamma^t, \Gamma^{t-1})$
と表わされる。その際、 ψ^t, Γ^t は
 $\psi^t = [\psi^t, \psi^{t-1}, \dots, \varphi^1, \varphi^0]$
 $\Gamma^t = [\gamma^t, \gamma^{t-1}, \dots, \gamma^1, \gamma^0]$

である^{(1),(2),(3)}。ここに、
(i) $[z_1, z_2, \dots, z_n]$ は n 個の要素 z_1, z_2, \dots, z_n から成るリスト
(ii) $\text{head}(K)$ はリスト K の最初の要素
(iii) $\text{tail}(K)$ はリスト K から $\text{head}(K)$ を取り除いて得られるリスト
(iv) $\text{tail1}(K) = \begin{cases} K \dots \text{tail}(K) & \text{が空リストの場合} \\ \text{tail}(K) \dots & \text{その他の場合} \end{cases}$
(v) cons は任意のリスト K に対し、 $\text{cons}(\text{head}(K), \text{tail}(K)) = K$ を満たす関数
(vi) \mathcal{T} は $\mathcal{T} \cdot \mathcal{T} = \mathcal{T}$ なる中等性などを満たす収縮写像で、 $\mathcal{T}\varphi \in \mathcal{W}$ は $\varphi \in \mathcal{W}$ のモデル。

(vii) $(0 \leq) SM(\varphi, w_j) (\leq 1)$ は二つのパターン φ, w_j 向の類似度
(viii) SGN は、カテゴリ C_j をパターン φ が帰属カテゴリ候補に持つ場合は $SGN(\varphi, j) = 1$ となり、そうでないカテゴリ C_k の場合 $SGN(\varphi, k) = 0$ となる大分類関数

(ix) 構造受精作用素と呼ばれる $A(K)$ は
 $A(K)\varphi = \text{if } K = \text{空リスト then } \varphi$
 else
 $\text{if } \sum_{r \in K} SGN(\varphi, r) = 0 \text{ then } \sum_{r \in K} SM(\varphi, w_r) \mathcal{T}w_r$
 $\text{else } \sum_{r \in K} SM(\varphi, w_r) \cdot SGN(\varphi, r) \cdot \mathcal{T}w_r$
 fi
 fi

(X) すべての $j, k \in J$ について、 $SM(\varphi, w_j) \leq SM(\varphi, w_k)$ 、 $k=1, 2, 3, \dots$ であれば、
 $\text{SORT}(\varphi, \varphi) = [j_1, j_2, j_3, \dots]$ 。

3. 不動点構造受精変換と同値関係
これ迄のごとく、処理対象としてのパターン φ の集合を \mathcal{W} とする。
定義 3.1 $\varphi \in \mathcal{W}$ から $\psi \in \mathcal{W}$ への不動点構造受精変換 $\varphi \rightarrow \psi$ とは次の i, ii の

An Equivalent Transformation that preserves the meaning of patterns Shoichi SUZUKI BUNKYO UNIVERSITY

いづれかが成り立つことである:

(i) $\mathcal{A}\psi = \mathcal{A}\psi$

(ii) $[\psi^0, \mathcal{P}^0]$ が入力されたプログラム FERT が動作し得られる長さ $n (\geq 1)$ 以上の列


$\dots, [\psi^m, \mathcal{P}^m], [\psi^{m+1}, \mathcal{P}^{m+1}], \dots, [\psi^{m+n}, \mathcal{P}^{m+n}]$ が存在し, $\mathcal{A}\psi = \text{head}(\psi^m), \mathcal{A}\psi = \text{head}(\psi^{m+n})$.

定義 3.2 ニつのパターン $\psi, \psi \in \mathfrak{A}$ が **認識同値** であるとは, 次の i, ii のいずれか一方が成立することであり, これを $\psi \sim \psi$ と書く: (i) $\psi \rightarrow \psi$

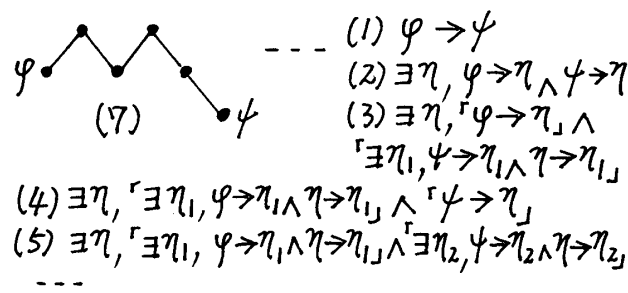
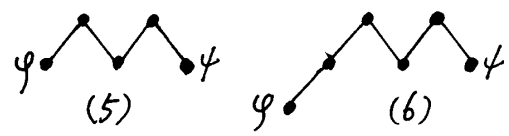
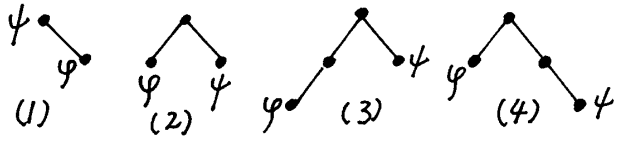
(ii) $\exists \eta \in \mathfrak{A}, \psi \sim \eta \wedge \psi \sim \eta$.

[定理 3.3 (認識限界定理)] 二元関係 \sim は不動点構造受精変換 \rightarrow を含む最小の同値関係である.

4. 同値関係 $\psi \sim \psi$ の図的表示

$\psi \rightarrow \psi$ を次の様に図示する: 

このとき, $\psi \sim \psi$ の図示は次の如く無限グラフになる.



5. 同値変換

定義 5.1 ' $\psi \sim \psi$ ならば, $\psi \sim B\psi$ を満たす写像 $B: \mathfrak{A} \rightarrow \mathfrak{A}$ は同値関係 \sim を保存する変換であり, パターン ψ の意味を保つ同値変換と呼ばれる.

[定理 5.2] $B: \mathfrak{A} \rightarrow \mathfrak{A}$ が同値関係 \sim を保存する変換ならば, ' $\psi \sim \psi \Rightarrow \psi \sim B\psi \wedge B\psi \sim \psi \wedge B\psi \sim B\psi$ '. \square

次の補題 5.3 は 4 章の ' $\psi \sim \psi$ の図的表示' から容易に証明される.

[補題 5.3] ' $\psi \rightarrow \psi$ であれば, $\psi \rightarrow B\psi \wedge B\psi \rightarrow \psi$ が任意の $\psi, \psi \in \mathfrak{A}$ に対し成立すれば, 写像 $B: \mathfrak{A} \rightarrow \mathfrak{A}$ はパターンの意味を保つ同値変換である. \square

上の補題 5.3 を適用すれば, 次の定理 5.4 を得る.

[定理 5.4] 写像 $S: \mathfrak{A} \rightarrow \mathfrak{A}$ は, 不変性 ' $\forall \psi \in \mathfrak{A}, \mathcal{A}S\psi = \mathcal{A}\psi$ ' を満たせば, パターンの意味を保つ同値変換である.

6. 例

実は, 収縮写像と呼ばれる写像 $\mathcal{A}: \mathfrak{A} \rightarrow \mathfrak{A}$ は次の axiom 1 を満たさなければならぬが, この \mathcal{A} の代表的な例として, 次の定理 6.1 の構造モデル化写像 \mathcal{A} がある⁽³⁾.

Axiom 1 (i) $\exists 0 \in \mathfrak{A}, \mathcal{A}0 = 0$ (ii) $\forall \psi \in \mathfrak{A}, \forall \alpha (= \text{定数}) > 0, \mathcal{A}\alpha\psi = \mathcal{A}\psi$ (iii) $\forall \psi \in \mathfrak{A}, \mathcal{A}\mathcal{A}\psi = \mathcal{A}\psi$ (iv) $\exists \psi \in \mathfrak{A}, \mathcal{A}\psi \neq 0$. \square

[定理 6.1] 収縮写像 \mathcal{A} として, $\mathcal{A}(\cdot) = \sum_{\ell \in L} \alpha_{\ell}(\cdot) \cdot \theta_{\ell}(H) \|\cdot\|^{(1)(2)}$ を採用した場合, $\alpha U, \sum_{\ell \in L} w_{\ell} \cdot \theta_{\ell}(H) \cdot \mathcal{A}(\cdot)$ は共にパターンの意味を保つ同値変換である. ここに, α は非零複素定数, U は特徴抽出作用素 H と可換な τ タリ作用素, w_{ℓ} は $0 < w_{\ell} \leq 1, 0 \leq t_{\ell} \leq w_{\ell} \cdot \log_2 [e_{\psi} / \text{size}(\|\cdot\|^{(1)(2)})]$ なる w_{ℓ}, t_{ℓ} を用い, $w_{\ell} = \exp[-2^{t_{\ell}} \cdot w_{\ell} \cdot t_{\ell}]$. \square

7. おすび

同一カテゴリに認識される可能性のあるパターンの集合を図示し, この図的表示を穿衒な図に書き直せる同値変換が定理 3.3, 5.2 の形で明らかにされた.

[文献] (1) 鈴木昇一: 不動点形構造受精認識の再帰プログラム FERT, 情報処理学会第 27 回全大講義 (II), 5H-6, 1983-70

(2) 鈴木: 平均類似度を用いた構造受精法による日本語単独母音の認識, 電子通信学会技報 [パターン認識と学習], PR 82-4, 1982-05

(3) 鈴木: パターン認識の数学的理論 (オ V 部認識停止と認識同値), 電子通信学会技報 [パターン認識・理解], PR 86-7, 1986-05